



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
「愛よりお金」なときもある クイズプレイヤー 伊沢拓司

- 4 インタビュー／扉を開く
別所哲也 俳優・ショートショートフィルムフェスティバル&アジア主宰
俳優とショートフィルムの「二足のわらじ」



- 9 地域の底力——香川県三豊市
自立した民間の活動と行政の支援姿勢が導く香川県三豊市の未来



- 17 対談／守・破・創
田嶋幸三 日本サッカー協会 (JFA) 会長
高田 創 日本銀行政策委員会 審議委員
サッカーは世界の縮図 グローバル化が景色を変える

- 22 日本銀行のレポートから (1)
「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2023 年4 月—



- 24 FOCUS → BOJ ④ 日本銀行旧小樽支店金融資料館
開館20年を迎えて

- 29 日本銀行のレポートから (2)
「金融システムレポート」—2023 年4 月—

- 35 トピックス
日本銀行新総裁、新副総裁就任 ほか



- 39 AIR MAIL from Frankfurt
欧州統合の象徴「ユーロ」

※取材は感染対策を徹底して実施しています。
本誌は6月6日(火)までの情報をもとに掲載しています。

表紙のことば

表紙の店舗は、日本銀行門司事務所です。門司事務所は、明治二十六年（一八九三）十月に開設された「西部支店」の系譜を継ぐ、現在の「北九州支店」の前身です。

西部支店は、大正六年（一九一七）、熊本支店の設置と共に「門司支店」と改称しました。

この門司支店の店舗は、昭和二十年（一九四五）の空襲により、金庫・公文庫を残して本館は全焼しましたが、焼失の翌日には市中の銀行内に仮店舗を設け、営業を続けました。

仮店舗での営業は四年五カ月に及びましたが、その期中である昭和二十三年（一九四八）、

門司支店は「門司事務所」に改組されます。九州北部地域の経済規模等を考慮して、事実上支店とほぼ同格の権限を持つ事務所でした。

表紙の店舗が落成したのは、昭和二十四年（一九四九）のことです。

その後、昭和三十八年（一九六三）に百万都市「北九州市」の発足を機に、門司事務所は「北九州支店」となり、翌年（一九六四）に店舗を小倉区（現在の小倉北区）に新築・移転して、北九州の街とともに歩んでおります。

裏表紙の写真は、金融研究所アーカイブ所蔵のものです。



表紙・画 北村公司